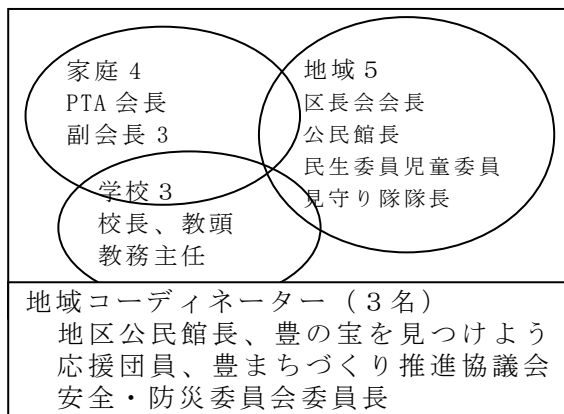


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

- ①開催予定回数 年3回
- ②開催日程 6/20、11/13、2/12
- ③協議内容
  - ・学校経営方針、活動計画
  - ・学校評価分析
  - ・喫緊の課題(安全、いじめ・不登校等)
  - ・見守り活動への協力体制

(3) 協議会における成果と課題

家庭や地域での様子を情報交換できた。子どもたちの姿を多面的・多角的にとらえられたことで、方向性が明確になった。開かれた学校づくりと働き方改革による教職員の負担軽減の両立を地域とともに考えていきたい。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

史跡、伝承、伝統行事、および豊かな自然が数多く残されている鯖江市豊地区では、地域の方々それぞれの宝を誇りとし、後世に継承していく努力をされており、本校の児童に対しても、昔話の読み聞かせをはじめ、さまざまな形で働きかけてくださっている。

こうした地域からの働きかけに呼応して、児童が自らの手と足で地域のお宝を調べ、体験し、分かったことや感じたことを他学年や保護者、地域の人々に発信することによって、地域に誇りと愛着をもつようになることが本活動のねらいである。



(2) 活動の実際

① 三床山登山と昔話に登場する場所を訪ね、発信していく活動(3年生)

三床山は豊地区の西に位置し、県内各地から登山者を集める名山である。3年生児童は地域コーディネーターおよび「三床山を愛する会」の方々の支援を受けながら、5月22日(水)に登山に挑戦した。当日は借り上げたバスを利用して麓まで行き、50分ほどかけて登頂した。児童は自分たちの住む土地の様子を山頂から確認しながら、豊地区についてもっと知りたいという意欲を高めた。



2学期は、まず、「読み聞かせの会」の方々から豊地区に残る言い伝えについて詳しい話をお聞きした。次に、言い伝えの舞台となった場所へ実際に行き確かめる活動「豊むかしむかし現地調査」を10月11日(金)に行った。当日は引率・解説ボランティアの方々に協力していただき、13班に分かれて活動を行った。子どもたちは、熱のこもった現地での説明に、しっかりメモをとりながら真剣に耳を傾けていた。



3学期は、調べて分かったことや感じたことを他学年や地域の方々に伝える活動を行った。どのような方法で発信したらよいか児童に考えさせたところ、かるた・劇・パンフレットなど、いろいろなアイデアが出された。2月18日(火)にお世話になった地域の方々に招いて発表を行った。発表を聞いた地域の方々からは、「わたしたちが案内した地元の宝を、感想を交えてこんなに立派に発表してくれて感動しました。」との言葉をいただいた。また、すべての班の発表をまとめたパンフレットは豊地区の回覧板で回していただき、全地区民の目に触れるようにした。

### (3) 地域コーディネーターの活動概要

地区公民館長、豊まちづくり推進協議会安全・防災委員会委員長、豊の宝を見つけよう応援団員等に、各活動の計画作成段階で相談にのっていただいたほか、支援して下さる人材の紹介もしていただいた。また、登山の際のナビゲーターや地域探検の際の引率、解説ボランティア、ふるさと学習の準備など、実際の活動に直接関わっていただいた。

### (4) 特に工夫した事項

- ・ 3年生の豊むかしむかし調査隊の活動では、さまざまな発信方法を児童に考えさせることにより、主体的な学習になるように工夫した。
- ・ 6年生の野菜栽培と伝承料理体験では、地域関係者との連携を密にし、活動に対する学校側の教育的ねらいと地域の方の思いとがずれないように配慮した。

### (5) 成果と課題

#### (成果)

- ・ 子どもたちが地域の財産に気づき、愛着を持つことができた。
- ・ 地域の財産を守り伝えてきた人たちに、「これまで活動してきた甲斐があった」と感じてもらえた。
- ・ 地域の教育的資源を有効活用したことで、学校と地域との信頼関係が深まった。

#### (課題)

- ・ 「探検→まとめ→発表」のどの段階においても、多くの時間を要した。子どもたちの主体的な学習を確保しつつも、効率的な学習カリキュラムが必要である。今後は、総合的な学習と他教科とを連携させた教科横断的カリキュラムを充実させていきたい。